

立命館大学技術士会 第17回総会

議 案 書

R

令和8年(2026年) 5月23日

(一社)中央電気倶楽部 215号室

13:00 ~ 14:00

立命館大学技術士会第17回総会議案

<第1号議案>

立命館大学技術士会第16期(2025年4月1日～2026年3月31日)事業報告 1

<第2号議案>

立命館大学技術士会第16期決算報告および監査報告 3

<第3号議案>

第17期事業計画(案)および予算(案) 5

＜第1号議案＞

立命館大学技術士会第16期(2025年4月1日～2026年3月31日)事業報告

(1) 会員拡大と組織強化

当会の本会員および準会員並びに賛助会員の現状確保と新規入会者を募ることは、組織の基盤強化を図る上で不可欠なことである。新規本会員は3名増により前期157名から160名となり、準会員は8名、特別会員は0名、賛助会員は4社と変わらず、結果、総会員数は172名となりました。会員拡大を目的に、建設会会報に情報提供をお願いする等の広報活動を継続しています。

また、運営体制について、星野新会長就任に伴い、幹事長、企画、渉外、窓口、及び広報・記録の各副会長について3名交代新任、会計責任者としての副幹事長を設置するなどにより、大幅な世代交代を実施しました。幹事は2名の新任者を迎え、総勢28名で活動した。

第9期から加入した「大学技術士会連絡協議会」の2025年度総会は、2026年1月24日(土)、中央大学後楽園キャンパスで行われ、当会から1名が参加した。総会の会場参加校数は24校、56名であった。

(2) 技術士試験受験への支援

令和7年度技術士第二次試験受験対策講習会について

2025年3月15日に1回目の受験ガイダンスを行い、受講者は3名(内2名はWeb参加)であった。

4月5日に2回目の受験ガイダンスを行い受講者は4名(内1名はWeb参加)であり、詳述論文や業務経歴を含む受験申込書の最終仕上げを行った。

5月10日に3回目の受験講習会を行い、受講者は3名(内1名はメール添削)論文添削・指導した。

6月7日に最終4回目の受験講習会を行い、受講者は1名で筆記模擬試験を行い個別指導した。

11月8日に口頭模擬試験を行い、受講者は1名であった。

尚、二次試験合格者としては、上下水道部門1名、総合技術管理部門1名、合計2名が合格。

令和8年度技術士第二次試験受験対策講習会は、2026年3月16日に1回目の受験ガイダンスの受講者は2名であり、当会の独自講習会資料に基づき受験指導を行った。

(3) 立命館大学への支援

① 本学、神子教授から依頼を受け、7月10日にBKCにて環境都市工学科3回生に対し、『第16回立命技術士懇談会』と題し、3名の幹事および1名の本会員が対面にて90分の授業を行った。

学生達にとって、実社会の業界毎の業務内容を聴講したことで、今後の就職先を検討する足掛かりになったものと思われる。

なお、本講義は立命館大学建設会、公益社団法人 日本技術士会近畿本部の後援を得ている。

② 本学、小川教授から依頼を受け、例年7月に実施していた環境都市工学科1回生に対する、『めざせ！技術士』について、カリキュラムの都合により11月6日にBKCにおいて実施しました。2名の幹事及び2名の会員が対面にて90分の授業を行った。最初に技術士制度や技術士試験について説明した後、公務員、建設コンサルタント、ゼネコン技術士の講師がそれぞれの立場で職務と役割について講義した。学生達にとって、技術士とは何か、技術者としての倫理観の醸成およびキャリアアップの一助になったものと思われる。

また、2名の会員講師は、会員への公募に応募により参加していただいた。

なお、本講義は立命館大学建設会、公益社団法人 日本技術士会近畿本部の後援を得ている。

③ 本学からの非常勤講師、講演依頼の対応状況について

1) 後期1コマ : <野坂教授>『技術者のキャリア』: 幹事1名対応中

2) 後期14コマ : <野村教授>『土木施設設計演習』幹事関係者を紹介済・対応予定

3) : <野村教授>『コンクリート構造演習』: 幹事1名対応中

4) : <野村教授>『鋼構造物演習』: 幹事1名対応中

5) 前期14コマ : <小林教授>『先端建設技術・・・』: 一部を幹事1名対応予定

6) 前期4コマ : <樋口教授>『技術者実務演習』: 幹事関係者及び幹事1名で対応中

(4) 技術講演会および親睦会

会員相互の資質向上の一環として、2025年5月24日の総会時にWEB併用にて二つの特別講演を行った。講演の一つ目は、かっぱ研究会世話人の大滝裕一氏に、「京都盆地の河川の変遷」～今出川、小川、四条川はどこを流れていたのか～と題して、京都にある河川の変遷について歴史的、防災的な観点からご講演いただいた。

二つ目の講演は、本学理工部環境都市工学科の野村泰稔教授に、「インフラモニタリングから防災予測へ」～ICTとAIによる次世代社会インフラ管理～と題し、これからのインフラ管理における膨大な情報を効率的に判断・処理をする先端技術について、ご講演いただいた。

なお、総会および講演会終了後、中央電気倶楽部大食堂にて講演者を交えて、和やかに親睦会が開催された。参加者は校友会来賓1名含む総勢27名の参加であった。

(5) 会員相互の交流・懇親と技術レベルの向上

会員相互の親睦を図るため、2025年11月8日、「第16回交流・懇親会」を中央電気倶楽部で行った。来賓として、今年度定年を迎えられる環境都市工学科、惣田訓教授をお迎えし、総勢19名の参加であった。なお、交流・懇親会参加費の一部を本学の”未来人財育成基金”に寄付した。

併せて懇親会前に、会員による以下に示す3つの小講演（プレゼンテーション）が執り行われた。

- ① 畑中 章秀 会員 「羽田連絡橋（鋼箱桁橋）の振動制御に関する話題」
- ② 江頭 慶三 会員 「合成桁橋と床版に関わって」

また毎年、会員の技術レベルの向上のため、日頃の科学技術の研究成果や技術報告をはじめ、自由闊達なご意見や近況報告について、会報誌への投稿をお願いしている。第16期は、第9号を2025年11月、当会ホームページ上で発行した。特別寄稿として、理工学部長であり環境都市工学科の教授の里深好文様から、「立命館大学理工学部は立命館大学技術士会とのさらなる連携を期待しています」と題して、寄稿いただいた。

会員の声として、自由テーマ部4編、新幹事紹介として2編が寄稿された。

来期も引き続き、会員相互のコミュニケーションツールとして、活用していただきたい。

(6) 会計基金の充実と、事業企画の推進

2014年（平成26年）3月から、①技術士受験支援基金、②各種講演会・交流企画基金、③大学支援・共同企画基金を設け、将来の各事業企画の有効な実施が図れるよう、予算を備えている。

当該基金の本来の趣旨は、こうした事業企画に活かすための予算であるが、来る南海トラフ大地震、その他感染症等疫病を含む複合災害が起きたとき、仮に会費の徴収が出来なかったとしても、当基金の活用により、会の活動は継続できるものと考ええる。

この3事業の活動基金として5万円を行う予定であったが、会議室や備品等の使用料高騰の影響により当活動基金の追加を見送ることとした。現時点での基金の総額は、85万円となっている。

＜第2号議案＞

立命館大学技術士会第16期決算報告および監査報告

(2025年4月1日～2026年3月31日)

項 目	予 算	決 算	摘 要
(1) 収入			
①会費等収入	140,000	146,000	個人会費
	40,000	30,000	賛助会費
	50,000	66,000	その他(お祝い＋会費寄付等)
②講習会収入	10,000	10,000	講習会受講参加費
③未来人財育成基金	20,000	18,000	
④その他	3,966	1,841	懇親会残金等
今期計	263,966	271,841	
⑤前期繰越金	136,034	136,034	前期残高合計
合計	400,000	407,875	
(2) 支出			
①会員技術研修等支援活動費	150,000	146,590	
②大学教育支援活動費	20,000	9,000	
③技術士試験受験支援活動費	120,000	106,900	支援活動費、講習会場費
④その他活動費	30,000	21,000	未来人財育成基金(¥18,000)、広告費等
⑤通信事務費	5,000	2,200	
⑥会費振込手数料	5,000	2,745	
上記計	330,000	288,435	
⑦大学支援・共同企画基金	50,000	-	3活動基金
⑧予備費	20,000	-	
今期計	400,000	288,435	
収入額		407,875	
支出額		288,435	
収支合計＝		119,440	・・・ 次期繰り越し金額
監 査 報 告			
立命館大学技術士会第16期会計内容につき、通帳、金銭出納簿、領収証および入金書類を監査した結果、適正に処理、記載されていると認める。			
令和 8年 5月 7日		立命館大学技術士会	
会計監事		山下 雅己	
会計監事		兼塚 卓也	

積立基金会計（ゆうちょ銀行）

貯金名	預け年月日	預け金額	払戻（開始）年月日	年利率	%
定額貯金④ 3活動基金	H26-03-27	¥150,000	H26-09-27	0.04	
定額貯金① 3活動基金	R6-03-27	¥150,000	R6-9-27	0.002	
定額貯金② 3活動基金	H26-03-27	¥150,000	H26-09-27	0.04	
定額貯金② 3活動基金	R6-03-27	¥150,000	R6-9-27	0.002	
定額貯金③ 3活動基金	H27-03-30	¥150,000	H27-09-30	0.04	
定額貯金③ 3活動基金	R7-03-31	¥150,000	R7-10-01	0.32	
定額貯金④ 3活動基金	H28-03-29	¥100,000	H28-09-29	0.01	
定額貯金④ 3活動基金	R8-03-30	¥100,000	R8-03-30	0.01	
定額貯金⑤ 3活動基金	H29-03-30	¥100,000	H29-09-30	0.01	
定額貯金⑥ 3活動基金	R3-03-30	¥100,000	R3-09-30	0.002	
定額貯金⑦ 3活動基金	R4-03-28	¥50,000	R4-09-28	0.002	
定額貯金⑧ 3活動基金	R5-03-31	¥50,000	R5-10-01	0.002	
合 計		¥850,000			

* 3活動基金とは、受験支援基金、講演交流基金、大学支援基金を表す。

* 定額貯金④は、R8年3月29日満期につき、同翌日に再度預け直した基金である。

* 預入の日から10年経過後、自動的に払戻金の全部が通常口座に振り替えられます。

＜第3号議案＞

第17期事業計画(案)および予算(案)

＜事業計画(案)＞

(1) 会員拡大と組織強化

当会本会員の高齢化が進んでいるなか、組織の基盤強化と安定化を図るために本会員はもとより準会員、並びに賛助会員についてその拡大を図ることは重要である。引き続き、当会の活動趣旨に賛同して下さる卒業生等への積極的な入会の働きかけを行い、支援を得たいと考える。

今後も、学生部会や建設会の会報に、会の活動内容の紹介や技術士取得情報提供のお願いをして広報活動すると共に、役員・幹事のネットワークにより新規会員の拡大を図りたい。

また、第10期から事務局の役割を4つ(①企画、②渉外、③窓口、④広報・記録)に分担して活動してきたが、今期も前期同様、この体制を維持、継続していきたい。具体には8名の副会長に、4つに分担した総括責任者を担ってもらい、その他幹事も振り分けて円滑かつ実効的な活動を目指す。

併せて、会計を兼務する幹事長を全面的に補佐する目的で、第14期に新設した副幹事長にその役割を担ってもらいたいと考える。

なお、36校が加盟する「大学技術士会連絡協議会」については、各大学が抱える活動上の共通の課題や必要な情報共有を図るため継続して加入することとし、年次総会が開催されればWeb参加を視野に入れて、今後も参加する予定である。

(2) 技術士試験受験への支援

2026年3月14日に開催した第1回受験ガイダンスに続き、4月4日には2回目の受験ガイダンスを実施し、受験申込書(実務経験証明書欄や詳述論文)の添削指導および合格体験者の勉強方法の紹介等を行った。受講者は2名で対面にて指導した。また、5月9日、6月6日の受験講習会時には、7月19日、20日の本試験日を見据えて、論文の添削に重点を置いて指導すると共に、最終講習会では模擬試験を行う予定である。なお、筆記試験の可否通知は11月上旬とのことから、当会の模擬口頭試験は、中央電気倶楽部にて11月14日に予定している。

(3) 立命館大学への支援

昨年に引き続き、環境都市工学科3回生を対象に7月10日、BKCにて『第16回立命技術士懇談会』を開催し、幹事や会員が、公務員、建設コンサルタント、ゼネコンのそれぞれの立場で技術士の職務と役割について、対面授業にて講義する予定である。また、前年度同様、講師は幹事および一部の会員だけに留まらず、広く全会員を対象に公募することを考える。

さらに、環境都市工学科1回生に対して12月3日、『めざせ！技術士』と題して、技術士制度や技術士試験の説明を行い、技術士が日本の科学技術における最高位の国家資格であることを学ばせる。

併せて講義の中で、大学在籍時に技術士第一次試験に挑戦することを広く啓蒙する予定で、年々その受験者および合格者も増えてきているようである。

なお、上記二つの講義は、本学建設会および(公社)日本技術士会近畿本部の後援のもと、実施する予定で、いずれもその講義時間は、昨年度の90分から95分になると聞いている。

また、令和3年度から環境都市工学科4回生の『技術者実務演習』(前期4コマ)に対し、授業担当講師として幹事等2名を派遣しているところであるが、講義内容として、技術士制度の説明や第二次試験の問題解説、実社会での環境に係る実務紹介など行ってきた。5年の任期満了により新講師による講義が今後行われる予定。

さらに、昨年度からスタートした理工学部1回生から4回生までを受講対象とした『技術者のキャリア』についても依頼を受け、引き続き講師を派遣する予定である。講義内容は講師の現在の仕事や経歴、学生時代に打ち込んだこと、企業での最前線の技術開発の動向、技術者に求められている資質、学生達に期待していること等々である。

(4) 技術講演会および親睦会

これまで総会時に、本学理工学部先生や異分野を含む外部の講師を招いて特別講演を企画してきた。今年度も中央電気倶楽部にてリアルおよびWEB併用による以下の2講演を予定している。

一つ目の講演は、大阪商業大学公共学部の狭間恵三子教授をお招きし、「地域資源をいかしたまちづくり」と題して、ご講演をいただく。

二つ目の講演は、本学理工学部環境都市工学科の藤本将光教授をお招きし、「土砂災害を知る、備える」と題して、ご講演いただく予定である。

なお、講演後、中央電気倶楽部大食堂にて講演者を交えて親睦会を開催する。

(5) 会員相互の懇親と技術レベルの向上

当会の活動において、会員相互の親睦の機会が限られているため、令和5年度から受験対策講習会時の講師や、大学支援の一環で講義している『めざせ！技術士』および『立命技術士懇談会』時の講師について、広く会員から公募することにした。結果、現時点では限られた人数ではあるが、講師として参画していただき、こうした活動を通じて更なる親睦を図りたいと考えている。

また、会員相互のコミュニケーションツールとして発行している会報誌であるが、今年度も11月頃、第9号の発行を予定している。会員への投稿呼びかけは、当会ホームページにて7月頃に募集する予定である。

毎年11月に実施している交流・懇親会であるが、今年は同月14日、中央電気倶楽部にて予定している。会員に対して技術発表や最新の事業紹介等の場を提供し、技術レベルの向上と相互の幅広い交流、懇親を図りたいと考えている。

(6) 会計基金の充実と、事業企画の推進

本基金は受験支援、講演交流、大学支援の3つの活動を企画支援するため、2014年(平成26年)3月以降、積み立てを行ってきた。

また、第16期の報告においても述べたが、有事の災害等が発生した場合には、会の活動資金として有効に活用することも視野に入れている。併せて今後、既会員の高齢化が進み、かつ新規入会者が頭打ちとなった状況下でも、向こう2年間は当会の機能が停止することなく活動できるよう、基金は総額100万円を目途にその充実を図りたいと考えている。

この基金について第14期～第16期は、予算の確保が厳しかった関係で取り止めたが、第17期の予算(案)では、5万円をその活動基金として計上している。

<予 算(案)>

① 収 入

(1) 会費等	本・特別・準会員	150,000	
	賛助会員	40,000	
	その他(お祝い+寄付等)	50,000	
(2) 講習会等		10,000	
(3) 未来人財育成基金		20,000	交流・懇親会参加費より
(4) その他		10,560	
(5) 前期繰越金		119,440	
合 計		400,000	

② 支 出

(1) 会員技術研修等支援活動費	160,000
(2) 大学教育支援活動費(支援活動派遣費・協力費含む)	20,000
(3) 技術士試験受験支援活動費(支援活動派遣費・協力費含む)	120,000
(4) その他活動費(未来人財育成基金、広告費等)	30,000
(5) 通信事務費	5,000
(6) 会費振込手数料	5,000
上記 計	340,000
(7) 大学支援・共同企画基金(3活動基金)	50,000
(8) 予備費	10,000
合 計	400,000

積 立 基 金 会 計 (ゆうちょ銀行)

預 金 名	預け年月日	預け金額	払戻(開始)年月日	年 利 率	%
定 額 貯 金 ① 3 活 動 基 金	R6-03-27	¥150,000	R6-09-27	0.002	
定 額 貯 金 ② 3 活 動 基 金	R6-03-27	¥150,000	R6-09-27	0.002	
定 額 貯 金 ③ 3 活 動 基 金	R7-03-31	¥150,000	R7-10-01	0.32	
定 額 貯 金 ④ 3 活 動 基 金	R8-03-30	¥100,000	R18-03-30	0.51	
定 額 貯 金 ⑤ 3 活 動 基 金	H29-03-30	¥100,000	H29-09-30	0.01	
定 額 貯 金 ⑥ 3 活 動 基 金	R3-03-30	¥100,000	R3-09-30	0.002	
定 額 貯 金 ⑦ 3 活 動 基 金	R4-03-28	¥50,000	R4-09-28	0.002	
定 額 貯 金 ⑧ 3 活 動 基 金	R5-03-31	¥50,000	R5-10-01	0.002	
定 額 貯 金 ⑨ 3 活 動 基 金	R9-03-30	¥50,000	R9-10-01	0.051	
合 計		¥900,000			

* 3活動基金とは、受験支援基金、講演交流基金、大学支援基金を表す。

* 定額貯金⑨が、第17期の基金予定額である。

* 預入の日から10年経過後、自動的に払戻金の全部が通常口座に振り替えられます。